

□ 次の方を讀んで、後の問に答へなさい。(抜き出しの問題に答へる場合、句読点・記号等は全て一字とする)

私は田舎の家で生まれた。取り上げてくれたのは近所のお婆さんであつた。私を生んだ母は、出産したのと同じ部屋で私が三歳のとき肺結核のために死亡した。

それから三十年後、私が生まれ、母が息を引きとつた部屋で、母に代わつて私を育ててくれた祖母の最期を看取つた。彼女もこの部屋で、私が生まれたときには既に故人になつていた祖父の最期を見届けていた。

改築を繰り返したので昔の面影は薄れてしまつたが、死ぬときはできればあの部屋で死にたい、と思う。

以前、家というものの中には、誕生と死が同居してゐた。数多くの死と生を見てきた節穴のある天井や黒光りする床柱は、¹人間の一生のはかなさをその家の住人に無言で教えていた。

今、誕生も死も、ほとんどが病院という、ふだんの生活とは隔絶された場所であつた。ローンで建てた新材の家の天井も柱も、人生で最も大事なことを教えることがでなくなつた。誕生と死の方に限つてみても、何千年も変わらなかつた生活の仕方、たかが数十年の間に、これほど急に変化させてよいのだろうか、という気がしてならない。

²小さな説しか書けない男が偉そうなことをいうつもりはない。ただ、川を流れているゴミにだって、ときには、こんなに速く流れていいのかな、と疑問に思うことくらいあるだろう、と言いたいのである。

川といえば、医者になつて三年経つた頃、いくらかノイローゼ気味になつて私を治してくれた名医が、ほかならぬ川であつた。

真面目な学生ではなかつたが、国家試験を一度でパスする程度には勉強してゐた医学生時代、病氣に関する講義は嫌になるほど聴いた。しかし、人間は遅かれ早かれ、生まれたからには必ず死ぬのだ、という単純な事実をわかるように教えてくれる講義はなかつた。

ターミナルホスピタルである総合病院に研修医として勤め始めてみると、治る病氣は教わつたマニュアルの適用を間違わなければほとんど自然に治つていった。そして、まるで目の粗いフルイにかけられたように、治らない病氣が残し、いかに努力してみても患者さんたちは亡くなつていった。

長男が生まれた頃、私は死のことばかり考えていた。

妻を手伝つて、生まれて数ヶ月の長男を風呂に入れてゐると、病院から呼び出しの電話が鳴る。病棟で患者さんの最期を看取つて帰宅すると、新しい生命は妻の乳房を一所懸命に吸つてゐる。数時間の間に、人生の出發と臨終の光景を交代に見せつけられる生活を繰り返しているうちに、思考が停止してしまつた。

ある日、病院の中にこれ以上居続けていると発狂しそうな気がして、裏を流れる川の岸に出てみた。そんな精神状態でも空腹だけは感じていたから、売店でパンと牛乳を買うのを忘れなかつた。

穏やかな初夏の陽光を一杯に受けて、川岸の石に腰をおろし、パンをほおばりながら川面を見ていた。じっくり川を見るなんて何年ぶりだろう、と記憶をたどつてみたが、想い出せない。近くにありすぎる自然を見つめるのは、(I) 正常な精神の生活者にとつてはいささか恥ずかしいことなのかもしれない。

水の反射に目が慣れてくると、水中の様子がよく見えてきた。生まれたばかりらしいハヤの子たちが浅瀬に群れてゐた。これから待ち受けているはずの自然淘汰の荒波も知らぬげに、精一杯水流に逆らつてゐた。

そして、さらに深い流芯を、魚体を銀色に光らせながら、アユの群れが泳いでいた。たった一年しか生きないこの魚たちも、自分たちの受けた貴重な生を完全に燃焼しつくそうとしてゐるのかのように、鋭い泳ぎで上流に登つていった。

川岸の乾いた砂の上に、パックの牛乳をストローで飲んでゐる私の猫背の影が映つてゐた。静止し、活氣のないその影を見ているうちに、³なぜだか目頭が熱くなつてきた。思考するのを拒否してゐた頭の中に、生命の誕生と死の間を結ぶ川のようなものが流れ出した。

「あいつらとおなじなんだ」

ほとんど声を出して叫びたい衝動を抑え、大きな深呼吸を二、三度してから、私は背を伸ばし、一步一步に力を込めて病院に戻つた。それ以来、何かあると川を見る。川岸で猫背の男がうつろな目をしてしゃがみ込んでゐるのは、他人に余計な心配をかけることになるので、釣りを始めた。私の釣りは (II) のが目的なのである。

誕生が山の湧き水だとするなら、死は海であり、人生は川の流れそのものだといえるだろう。最も多くの水をたたえ、その一部を蒸発させて雨に変え、また川を流れ下らせる。⁴やはり基本は (A)、すなわち (I) なのかもしれない。

人間は川の流れに乗つた考える藻にすぎない。⁵どんなに考えたところで、川は海に向かって流れていく。それならば、まず流されてゐる自分を自覚するところから、考えることを始めればいい。

⁶生まれたばかりのハヤの子や、短命のアユ、そして、流れている川そのものが、生きることと疲れたふりをしていた私に、貴重な忠告をくれたのだつた。

同じ頃に小説を書き始めたので、私の書くものには、川から得た死生観が色濃く影を落としてしまふ。

たとえば、子を産む女性を登場させるとき、彼女の心のどこかに、哺乳類の雌としての自分を自覚してゐる、という描き方をする。一匹の哺乳類として子孫を残せたことに対する生物としての根源的な安心感、満足感。子に乳房を含ませている母親の表情にあの独特の余

裕を与えているのは、こういった感情ではないか、という気がしてならない。

だから、若い女性の口から、仕事があるので、結婚しても子どもは三年間造らない、などという言葉を聞くと悲しくなってくる。子どもは人間の頭で造るものではなく、哺乳類の一員として子孫を残すべく、自然を支配する大いなる法則によって授かるものなのだ、という謙虚さが必要ではないか。

ところで、哺乳類の雄としての男の役割は、と考えてみると、なんとも情けなくなるほどイメージに乏しい。雌が安心して子孫を残せるように、しっかりエサを確保してやること、とでもするしかないようだ。

自ら子を産むことのできぬ男たちは、もしかしたら、一生自分が哺乳類の一員であることを本質的に理解できないまま死んで行くのかもしれない。

老人の患者さんたちを多く見てみると、自分の運命を⁷「自然の力にゆだねてしまった、いわゆるふっきている人は、多くが女性であるのに気づく。男性たちは最後まで幼児のように、ふっきれない人が多いようだ。

どう見ても男は悲しい存在である。もし生まれ変わるなら、今度は女性に、と思うのだが、この想像をするたびに気分が悪くなるので、いつも中断している。

精子を放出するだけで、あとは俗世間をとび回っているだけの男。

子宮の中で、人類の進化の様子を十ヶ月の間に再現し、新たな進化を産み出す女。

女子と小人は養いがたし、などと口にしながら、最後までふっきれない男。

自分の腹の中で育った子孫に看取られて、静かに海に流れ入る女。

⁸ これだけ違う両者の共同生活に波風の立たないはずはない。

朝に死に、夕に生るるならひ、ただ水の泡にぞ似たりける。(鴨長明 『方丈記』)

『方丈記』の死生観に、男女が互いに一匹の哺乳類にすぎない、という謙虚な自覚が加われば、そこに出てくる人生の最低必要条件は「やさしさ」しかない。

やさしさ、という生存に不可欠な言葉を、あえて持ち出さなくてもよい時代が、人類にとって最良の時代だといえるのではないか。

(南木佳士『泡のような命』より 一部改変した)

問一 傍線部1「人間の一生のはかなさ」というものを「私」はどのようなことだと考えていますか。その答えにあたる十文字の言葉を文中から抜き出さない。

問二 傍線部2「小さな説しか書けない男」を比喩的に表現した十字以内の言葉を文中から抜き出さない。

問三 傍線部3とありますが、なぜ「目頭が熱くなって」きたのですか。その理由として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 水に反射する初夏の陽光があまりにもまぶしすぎたから。

イ 医者でありながら、パンと牛乳の食事ではあまりにもみじめだから。

ウ 魚でさえ精一杯、力強く生きているのに、今の自分はあまりにも意気地がないから。

エ これから死のうとしていた自分があまりにも哀れに思えてきたから。

問四 傍線部4の空欄ア・イに適切な一字の言葉を文中から探して入れなさい。

問五 傍線部5とありますが、このことを人間の立場に置きかえると、どのようなことになりますか。その答えにあたる二十二字の言葉をこれより前の文中から探し、その最初の五字を答えなさい。

問六 傍線部6とありますが、この「貴重な忠告」によって「私」が変化したことを示す「私」の行動を表現した一文をこれより前の文中から探し、その最初の五字を答えなさい。

問七 傍線部7とはほぼ同じ意味の十五字以内の言葉をこれより前の文中から抜き出さない。

問八 傍線部8とありますが、「私」は「波風が立たない」ようにするには何が必要だと考えていますか。その答えにあたる五字以内の言葉を文中から抜き出しなさい。

問九 空欄Ⅰに最も適切な言葉を次から選び、記号で答えなさい。

- ア 子どもを風呂に入れるときのように
- イ 肉親の本音を聞くときのように
- ウ 末期患者に真実を告げるときのように
- エ はじめて魚を釣ったときのように

問十 空欄Ⅱに最も適切な四文字の言葉をこれより前の文中から探して入れなさい。

二

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(抜き出しの問題に答える場合、句読点・記号等は全て一字とする)

※エコってなんだろうと思うこと、ありませんか？

エコバッグ、マイ水筒、マイ箸、エコ三点セットというそうです。実は筆者も出かけるときには、なるべくエコバッグや水筒を持っておくようにしています。

(A)、これらの行動がいったいどれくらい「環境に良い」ことなのか、つねづね疑問にも思っていました。

エコ三点セット、といっても、それぞれ「エコ」の意味合いは微妙に違います。

エコバッグについては、スーパーで配られるレジ袋を使わないようにするためのもの。その理由は大まかに言えば二点あって、一つには原料である石油資源を節約するため、もう一つは製造時と焼却時に出る二酸化炭素を減らす目的です。

マイ水筒は、外出先でペットボトル飲料などを買わないようにするために持つもので、お金と資源の節約にもつながる、といわれています。

マイ箸運動は、地球温暖化対策というより、むしろ森林保護の目的でおこなわれます。コンビニでもあったり、飲食店に置いてあったりする割り箸のほとんどの調達先は、中国などの発展途上国の森林から調達するので、森林保護のために使用を自粛しようということです。

こうして「エコ」な行をしていると、みるみる地球の気温が下がったり、森林が保護されるような気がしますが、実際はどうなのでしょう？ 環境の問題は、それほど単純にはいかないところが、難しいのです。

(B)、割り箸については、使う方が良いという意見もしばしば聞きます。なぜかというところ、国産材の割り箸の場合は、間伐材を使っているため、これを使用することは森林整備を後押しすることにつながります。人工材の木材を適度に伐採することにより、「植える→育てる→収穫する」という森林のサイクルをうまく循環させることの手助けになるのだそうです。手入れされた森林は二酸化炭素の吸収量も増えるため、林野庁では「木づかい運動」として間伐材を生活用品、建築材に積極的に使うようにすすめています。

(C)、割り箸は使った方がいいのでしょうか、使わない方がいいのでしょうか？ 割り箸を使うときに「これは国産だろうか、それとも中国産だろうか」と考えなければならぬとすれば、「エコ」もけっこう大変です。

レジ袋、エコバッグについては、さらに素朴な疑問があります。

買い物のときにレジで「袋はいりません」というと、環境のためにいいことをしたなと思います。お店によっては「エコ・ポイント」

を付けてくれるという特典もあります。でも疑問が湧いてくるのです。レジ袋は家庭の中で重宝なことが多いのに、なぜほかのプラスチック製品と同じように使ってはいけないのでしょうか？

レジ袋は軽くて丈夫なポリオレフィンという樹脂でできています。全国の店で年間約300億枚配られていると推定され、その石油資源の使用量は大型タンカー2隻分の原油に相当するといわれています。しかしプラスチック製品全般にいえることですが、燃やさないでそのまま放置した場合、自然環境の中で簡単には分解されず、環境に長くとどまることとなります。レジ袋の多くが再利用されることなく捨てられていて、エネルギー問題、ゴミ問題、ゴミ焼却に伴う二酸化炭素排出の問題に直結すると指摘され、「レジ袋を廃止してエコバッグを持つ」ということになっています。

(D)、スーパーやコンビニからモノを運ぶという用途のためだけに、一回だけ使って気軽に捨ててしまうことは止めるべきです。貴重な化石資源を浪費してよいわけがありません。

(E)、持ち帰ったレジ袋を三角に小さくたたんで一定量ストックしている家庭も多いでしょう。レジ袋は軽くて丈夫で水を通さないのも、とても便利です。生ゴミを入れる小袋や小物の長期保存、旅行のバックキング、雨よけ、その他さまざまな用途に使えます。感染症の予防にだけ役立っているかという調査はないでしょうが、衛生管理の面でもかなり役立っていると思われます。現時点では代替製品もありません。

ですから、レジ袋＝悪としてしまうのは、やはりちょっと違うと思うのです。

今は「レジ袋をもらうべきではない」ことになっていますから、有料になった場合は、きっと人々は束で売っているポリオレフィン製の袋を、こっそり買うことになるのではないのでしょうか。もし、それをじゃんじゃん使ってしまうようなことがあつたら

¹ □も□ありません。

結局、レジ袋をどのように考えたらいいのでしょうか？

環境問題というのは、このように理想と現実との間にギャップ（食い違い）がある上に、生活に密着していて解決が難しいことが多く、理解はしていても本音と建前が食い違うことが多いものです。

エコということで素朴な疑問を、さらにあげてみます。エコの概念を伝える言葉がいくつかあるのですが、言葉の定義が曖昧だったり、違う概念が交じり合ったりしてわかりにくいことがあるということです。

たとえば、ロハス、という言葉。この言葉を初めて聞いたときには、一体何のことかさっぱりわからなかったのですが、どうやら「環境にやさしい」「身体にやさしい」何かである、とは理解できました。問題はその「何か」です。さっそくロハスという言葉について調

べてみると、その意味は「健康で持続的な生活様式」というものでした。

快適な生活と環境や健康との両立は、世界中の多くの人々が共通して抱いている願いであり、日本のように、長く農耕生活を育んできた歴史を持つ地域では、古くからさまざまな形で実践されてきたことだと思えます。² それほど新しい概念だとも思わないのですが、ロハスという名前がついたとたんに、³ なにか別のものに聞こえるから不思議です。

「オーガニック」という言葉も定着していますが、⁴ これも不思議な言葉です。大まかに言って、農薬や化学肥料を使わずに農作物を栽培するという意味です。

そもそもオーガニックって体にいいのでしょうか。もちろん農薬は少ないほうがよいに決まっていますが、要は程度の問題です。最近の農薬はほとんど残留しないように改良されていますので、害虫が発生し始めた時期に基準値内の量を使うのであれば、害があるとは思えません。まったく使わないことにこだわるのは科学的ではなく、わざわざ農業を非効率にして、農家に苦勞を強いるだけになってしまいます。また、有機肥料は土壌の栄養になりますが、成分が一定でない上に、効果が現れるのに時間がかかるので、どのタイミングでどれくらいを与えたらいいのか、コントロールが難しいものです。しかも、有機肥料でも与えすぎれば過剰になって野菜がまずくなりま

すし、環境にもよくはありません。⁵ コンビニ弁当の売れ残りを使って有機肥料にしようという試みがありますが、むしろ(X)、

よほど環境にいいのではないかと思います。結局、農薬を適正量使い、素性のしっかりした有機肥料と少量の化学肥料を上手く組み合わせることが、おいしくて安全で農家に過剰な苦勞を強いない野菜を育てる方法なのではないでしょうか。

でも、そんなことをふつうは知らされていないですし、とにかくオーガニックがいいのですから、お店で「オーガニック」と書いてあると、私たちは特別なものに感じてしまいます。それが一度浸透した言葉の魔力です。

さらに、

「高くて健康によいものを買うのか」

「多少農薬を使っても、安いものを買うのか」

環境問題全般にいえることですが、「エコは高い」という固定観念ができてしまっ

てはいないでしょうか。

⁶ □□な生活をするには、値段の高いオーガニック商品を購入する必要がありますが、そのことが地球や環境にやさしいという図式が無意識のうちにできあがってしまっ

てはいないでしょうか。

※エコ…エコロジーの略。環境保護。

(龍澤美奈子『地球温暖化後の社会』より 一部改変した)

才
確
か
に

工
弁当を余計に作らないほうが

傍線部2とありますが、どういうことを「新しい概念だとも思わない」のですか。その答えにあたる十五文字の言葉を文中から抜き出さない。

問六　傍線部４とありますが、どういう点が不思議なのですか。答えが「オーガニックと言われると□□□□□□□□□□と思ってしまう点。」となるように、空欄に適切な五文字の言葉を文中から探して入れなさい。

(7)

問八 傍線部6では「健康でしかも環境にいい生活」という意味になるよう、筆者は文中の三文字の言葉を使って表現しています。その言葉を文中から抜き出さないさい。

①現代の親は、子どもにきちんとしたしつけをすることができず、それが社会秩序を大きく狂わしているという批判があちこちで聞かれる。「家庭の教育力は昔より低下した」と、多くの人が信じているのだ。ところが子どものしつけの^ア変遷を研究してきた広田照幸氏によれば、実は現代の親のほうが子どものしつけに対する自覚はずっと高く熱心であるという。

②戦前から高度成長期にいたるまで、農村社会では、子どもの自然の成長や自覚を期待する放任的なしつけが一般的であった。農村だけでなく都市の自営業の家庭でも、親は子どもに家の仕事を手伝え、一人前になるための労働のしつけには熱心だった。しかし、それを除けば、子どものしつけに無関心だったし、何よりも手をかける暇などなかったのだ。礼儀作法や道徳などを細かく子どもに教え込んだのは、もっぱら都市のサラリーマン・知的階級層や農村のフユウ層にすぎなかった。それなのに、今日青少年の振る舞いが社会の関心のになるとき、人々の攻撃の矛先は青少年の家庭のあり方に向けられ、「いまだきの親」が非難される。

③戦前から戦後のある時期まで、教育の課題とは、子どもに関心を払うことを親に勧め、子どもの教育にもっと熱心になるよう啓蒙（けいもう）することだった。大正時代、都市部のサラリーマンや知的階級層に登場した「教育する家族」、つまり、子どもの教育が主要な目標となる家族が、高度経済成長期を経て、全国・全階層へと広まり、今では多数派となっている。つまり、家庭の教育力は低下したのではなく、事実は逆だったのである。

④子どものしつけや教育に自覚と関心を持ち、時間もお金も使えるようになってくるのに、家庭の教育力の低下が叫ばれ、また子育てに悩みを持つ親が多いのはなぜか。それは、現代家族と親子が置かれている独特の状況と深く関係しているように思われる。

⑤子どもが一人前になるためには、学校教育という単一の経験では足りない。日常生活の経験を積み、一人前になるための知識や心構えを身につけていく必要がある。ところが生活空間は（X）し、子どもが日頃接する大人は親（それも母親）と学校の教師などごくわずかの人に限られてしまった。このことがさまざまな問題を生む原因となっているのではないだろうか。

⑥現代の家庭には、子どもが一人前になるために必要な多様な経験をする条件がない。家庭は消費の場となり、仕事の場ではなくなってしまう。また、核家族化しただけではなく、兄弟姉妹は少なく、核家族を包む親族のネットワークがせいぜい祖父母までとなり、かつて親族として重要だったおじ・おば・いとこが子どもの育つ環境にいないことが少なくない。さらに、地域社会の人々と接する機会がなくなった。よその大人たちの影響を受けられなくなったことは、子どもの環境変化を考えると、たいへん大きなポイントだと思う。

⑦子どもにとって両親はかつてないほど大きな存在となったわけだが、深夜にまで及ぶ連日の残業や単身赴任など、父親の家庭不在が進んだために、²母親の役割が肥大化した。子どもの発達過程で、母親は唯一の重要な大人となったといっても過言ではない。歴史的に見ると、母親一人の肩に子どもの養育の責任が負わされた時代などなく、むしろ、母親は子どもに対する責任を与えられず、子育ての楽しみを奪われた時代が長く続いた。戦後、家族の民主化と核家族化の中で、ようやく母親が自分の手で子育てをする地位と時間的余裕を持つことができるようになった。

⑧しかし、やがて「教育ママ」という^エソウゴを誕生させ、子どもの養育責任が母親一人の肩に負わされるようになった時代、つまり一九六〇年代は、同時に教育の価値がかつてなく上昇し、進学競争がほぼすべての社会階層に拡張されはじめた時期でもあった。家業も家産も重要性を失い、学歴こそが将来を保証すると考えられるようになり、日常の世話だけでなくしつけから勉学の指導まで、すべての責任が母親の肩にかぶさることになった。その上近年では、関心は単に学業上の達成だけでなく、「おけいこ」を通して個性や人間的幅をもめざす方向へと広がり、それが低年齢化している。母親は子どもの全人格形成に責任を負う存在になっているように見える。

⑨貧しい時代には子どもの家庭環境には大きな格差があったが、その原因を家庭の経済力やその背後にある社会構造に帰することができた。ところが、経済格差が縮まっていくにしたがい、子どもが成功するかどうかは親の教育力や注意深い配慮など、より私的な要素に影響されるようになった。つまり、「子どもの成功は親次第」という傾向が強まり、社会構造の矛盾に責任を転嫁することが難しくなってきたのだ。

⑩³子どもを一人前にするためのさまざまなしくみがあつた時代と違い、現代では、その仕事はもっぱら親の手にゆだねられている。しかし、すべての家庭が子どもを上手に育てる力を持つわけではない。生活に追われる親、十分な知識や情報に恵まれない親、両親がいない家庭、その他さまざまな事情をかかえる家庭があるという現実⁴は忘れ去られてしまう。子どもの養育にゆきづまった家庭、親子間の不和に悩みながら、周りに助けしてくれる人もないまま追いつめられてしまう家庭が少なくないが、⁴子育ての上での悩みは、「親の責任」という名のもとに、個々の家庭の問題にされてしまうのだ。

⑪低下したのは家庭の教育力ではなく、家庭を支えてきた総合的な力のほうなのではないだろうか。

⑫生活が豊かになり、平和が自明のことになると、子どもの事故や挫折は、しばしば家庭の平和を^オオビヤカす深刻な事件となる。しかも、問題をかかえた家庭は世間からも孤立しがちである。生活保守主義のムードが漂う現代では、生活基盤をオビヤカすものとして、問題をかかえた家庭に対する拒絶となって現れるのだ。家族中心主義と生活保守主義が、現代の子育てにはつきまといているといえよう。

⑬さらに情報化が親たちの子育てに不安に油を注ぐことになる。青少年の犯罪、自殺、いじめ、ひきこもりその他さまざまな出来事に関

する情報の洪水の中で、親たちは子育ての困難さと失敗の恐怖を感じずにはいられない。これまで子どもには無縁と思われていたさまざまな「心の病」が言われるようになり、子どもは従来よりもはるかに繊細な存在だという認識が強まった。親はよりいっそう細かい配慮へと駆り立てられる。心のケア（世話）に関心が高まるのは、子どもの心の病が実際に増加しているだけでなく、⁵親、教師、世間の関心が、子どもの心の問題に集まっているあらわれでもある。しかも、心の悩みを社会の問題として共有し、解決に取り組むよりも、子ども自身や家庭内の問題とする傾向が強い。

⑭子どもを育てることへの強い関心と責任感、多大な努力に反して、なぜか親子の関係はますます難しいものになっている。それは現代の家族が重大な矛盾をかかえているからだ。

現代では親子は対等であるべきという価値観を否定する親は少ない。また、しつけにあたって、子どもの意志を尊重する「子ども中心主義」が、多くの親たちの価値観となっている。このように近代以前の社会規範が効力を失い、親子の上下関係が不明確な状態の中で、子どもにも自主的な選択をさせることがしつけ方法の基本となっている。

⑮ここに矛盾がある。一方では親は、子どもの唯一の責任者とみなされ、子どもの能力によって世間から評価される状況があるにもかかわらず、他方では子どもの意志を尊重しなければならないのだから。

（宮本みち子『若者が《社会的弱者》に転落する』より 一部改変した）

※核家族：夫婦とその未婚の子どもとからなる家族

問一 傍線部ア～オの漢字は平仮名に、カタカナは漢字に改めなさい。

問二 空欄Xに入れるべき最も適切な言葉を次から選び、記号で答えなさい。

ア 普遍化

イ 特殊化

ウ 複雑化

エ 単純化

問三 傍線部1とありますが、筆者は何が低下したと考えていますか。本文中から十三文字で抜き出さないさい。

問四

傍線部2とは具体的にどういうことですか。その説明として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 母親の仕事が父親不在によって厳しくしつけをする父親の役割まで負うことになったこと。

イ かつては養育の責任がなかった母親が、戦後、子育てをする義務を負うようになったこと。

ウ 母親の仕事が子どもの日常の世話だけでなく、しつけや勉学の指導、人格形成にまで及んでいること。

エ 母親が経済格差を縮めるために働きに出ることが多くなり、子育てとの両立が困難になってきたこと。

問五

傍線部3とありますが、本文では子どもが一人前になるために必要であったものとして具体的に何を取り上げていますか。その答えにあたる六文字と十文字の二つの言葉を①～⑥段落から抜き出しなさい。

問六

傍線部4と話題の中心は異なりますが、結論としてはほぼ同じことが述べられている一文を、これより後の⑪～⑬段落の中から探し、その最初の五字を抜き出しなさい。

問七

傍線部5の理由として最も適切なものを⑬段落全体をよく読み、次から選び、記号で答えなさい。

ア 子どもの事故や挫折が多発しているから。

イ 家族中心主義と生活保守主義が浸透しているから。

ウ 情報化が進んだから。

エ 青少年の犯罪、自殺、いじめ、ひきこもりを恐れるから。

オ 「心の病」が増加しているから。

問八

この文章の《 》部分を九十字以上百字以内で要約しなさい。なお、始まりは「現代の家族の矛盾は、」、文末は「点にある。」とし、解答の中に、「価値観」「しつけ方法」「責任者」という言葉を入れること。

受験番号
氏 名

評 点
※

[illegible]

問七	問五	問四		問三	問二	問一
						A
				も		B
問八	問六			ありません。		C
						D
						E

[illegible]